

令和2年度動物愛護週間中央行事

2020どうぶつ愛護オンラインシンポジウム

テーマ：人も動物も幸せに～考えよう、共にくらす社会～

毎年9月20日から26日は、

「動物の愛護及び管理に関する法律」第4条で定められた動物愛護週間です。

動物への理解と関心を深めることを目的に、今年は「どうぶつ愛護シンポジウム」が開催されます。

今年度は新型コロナウイルスの影響により、屋内行事(シンポジウム)のみをオンライン形式で開催いたします。



2020年9月26日(土) 13:00~17:00 オンライン配信

▶ 詳しくはHPをご覧ください <https://doubutsuaigo.net/>



動物愛護表彰〈13:00~13:15〉

- 動物愛護週間ポスターデザイン絵画コンクール
- 日本動物児童文学賞
- 全国ペット写真コンテスト
- 動物愛護キャッチコピーコンクール

環境省ほか各協会・団体が開催したコンクールの受賞者と作品を紹介します。(新型コロナウイルス感染症への対策により表彰式は行わず、受賞者の方には後日、表彰状と副賞を送付いたします。)

講演会・パネルディスカッション〈13:20~17:00〉

- 13:20~13:50 ■ 飼い主講座：「コロナ時代、ペットとどう向き合うか～新型コロナウイルス感染症とペット～」
講師：中川 清志氏 (公社)東京都獣医師会副会長
- 13:50~14:20 ■ 講演①「人と動物の幸せにつながるソーシャルワークとは～動物介在活動の現場から～」
講師：上山 琴美氏 認定NPO法人キドックス代表理事
- 14:30~15:00 ■ 講演②「動物園で考える「動物と人の福祉」～大牟田市動物園での取り組みを例に～」(サテライト)
講師：椎原 春一氏 大牟田市動物園園長
- 15:00~15:30 ■ 講演③「鳥の目から見る、人と動物の共生社会～虫の目に偏らないために～」
講師：奥田 順之氏 認定NPO法人人と動物の共生センター理事長
- 15:45~16:45 ■ パネルディスカッション「人も動物も幸せに～考えよう、共にくらす社会～」
パネリスト 上山 琴美氏 椎原 春一氏 奥田 順之氏
コーディネーター 石田 戡氏 (一財)動物観研究所所長

主催：動物愛護週間中央行事実行委員会

講演者

中川 清志 なかがわ きよし

(公社)東京都獣医師会副会長



プロフィール

獣医師、獣医学博士

中川動物病院 院長

1972(昭和47)年12月22日生まれ

(公社)東京都獣医師会副会長

(担当: 小学校動物飼育動物事業, 公衆衛生事業, 狂犬病対策事業, 危機管理室感染症対策事業)

(公社)日本獣医師会 学校飼育動物支援対策検討委員会委員

(公社)日本獣医師会 総務委員会委員

飼い主講座「コロナ時代、ペットとどう向き合うか～新型コロナウイルス感染症とペット～」

新型コロナウイルス感染症は新しい病気だけにその実態がわからず、断片的な情報や噂話からくる不安ばかりが増幅されてきました。このような中では正確な情報を背景に、この疾病に対する知見をあつめてその実態をとらえ、刻々と変化する環境の中で考えられる最善の対策をとる以外に対処方法がありません。世界中の情報を見ても幸いペットへの感染は非常に少なく、発症したペットもごくわずかです。このセミナーではペットの飼い主さんが新型コロナウイルス感染症に対して抱いている漠然とした不安を少しでも軽減できるように、新型コロナ時代のペットとの付き合い方をお伝えできればと思います。

講演者・パネリスト

上山 琴美 かみやま ことみ

認定NPO法人キドックス代表理事



プロフィール

認定NPO法人キドックス代表理事

社会福祉士

キャリアコンサルタント

zaJKC愛犬飼育管理士

麻布大学動物介在活動(AAA)教育プログラム修了

第31回人間力大賞 総務大臣奨励賞 受賞

講演「人と動物の幸せにつながるソーシャルワークとは～動物介在活動の現場から～」

ソーシャルワーカーとして不登校・引きこもり・虐待・貧困・障害などの困難な状況にある子ども・若者達と接し、また、遺棄・虐待に遭った動物達と関わり、約7年間動物介在活動を実践してきました。その中で見えてきたこの活動の難しい点や得られた成果、人の福祉と動物の福祉の共通点や注意すべき点、人と動物の双方が幸せになるために必要なことや考えるべき点について、実際の事例を交えてお伝えいたします。



講演者・パネリスト

椎原 春一 しいはら しゅんいち

大牟田市動物園園長

プロフィール

鹿児島大学理学部生物学科卒業。

海の中道海浜公園動物の森(福岡市内)および民間動物展示施設(鹿児島県内)において飼育員、園長として勤務。

2006年、大牟田市動物園の副園長就任。翌年、園長就任。現在に至る。



講演「動物園で考える「動物と人の福祉」～大牟田市動物園での取り組みを例に～」

世界動物園水族館協会は「野生生物への配慮 世界動物園水族館動物福祉戦略」中で、「栄養」、「環境」、「身体の健康」、「行動」、「精神的領域」の「5つの領域」モデルに基づき動物福祉評価を行うことを提唱しています。それぞれの領域の中で負(嫌悪)の経験を減少させ、正(楽しみ)の経験を促進させていくことが重要です。大牟田市動物園は園のコンセプトを「動物福祉を伝える動物園」とし、飼育展示動物の動物福祉向上に取り組み、その取り組みを来園者だけでなく積極的に広く外部に発信しています。種としての福祉規準を担保するだけでなく、個としての福祉状態の向上を目指しています。その取り組みを紹介しつつ、「動物の福祉」と「人の福祉」を一体化した「動物と人の福祉」について考えてみたいと思います。



講演者・パネリスト

奥田 順之 おくだ よりゆき

認定NPO法人人と動物の共生センター理事長

プロフィール

岐阜大学獣医学課程在籍時より、犬猫の殺処分問題の解決を目指し学生団体を設立し活動。卒後、動物病院勤務の傍ら、東海若手起業塾でソーシャルビジネスを学び、2012年人と動物の共生センター設立。殺処分問題の根本解決のため、「飼い主が学ぶ」犬のしつけ教室や、重度の攻撃行動等を治療するぎふ動物行動クリニック開業。2017年全国に8人目となる獣医行動診療科認定医取得。行動学の知識を活かし、ペット産業に対する社会的責任推進に関する働きかけや、高齢者とペットの共生のモデルとなるペット後見互助会とものわの運営も手掛ける。著書に「動物の精神科医が教える犬の咬みグセ解決塾」「ペット産業CSR白書」。



講演「鳥の目から見る、人と動物の共生社会～虫の目に偏らないために～」

動物愛護の活動は、目の前の動物の「かわいそう」な状態をなくしたい、という情緒的な動機づけに端を発して行われていることが多いでしょう。あるいは「殺処分をなくしたい」「ペット産業をなくしたい」といった強い感情から突き動かされているかもしれません。そうした、動物を守りたいという強い感情は、時に、動物以外のものを見えなくし、視野を狭めてしまいます。「かわいそうだから」という感覚から、避妊去勢していない野良猫に餌を与え続けて、地域の問題に発展させてしまうことや、「今、生きていれば…」という思いから、十分な設備や人員のない中で過剰な保護を行ってしまうこともあるでしょう。そうした行為は、「動物を守りたい」という気持ちとは裏腹に、動物を傷つけることもあります。人と動物の共生の問題を、社会問題として捉えるならば、動物だけを見るのではなく、社会を捉え、広い視野で、人と動物の関わり合いを見る、鳥の目を持つ必要があるでしょう。



コーディネーター

石田 戢 いしだ おさむ

(一財)動物観研究所所長



プロフィール

1946年、東京生まれ。東京都の動物園勤務、帝京科学大学教授、千葉市動物公園園長を経て、現在、動物観研究所所長、ボルネオ保全トラストジャパン理事長。日欧動物観の比較を通じて、人と動物の関係を研究している。

- 昭和46年 東京大学文学部卒業、恩賜上野動物園(東京都)就職
- 平成10年 井の頭自然文化園園長
- 平成11年 葛西臨海水族園園長
- 平成19年 帝京科学大学アニマルサイエンス学科教授、ヒトと動物の関係学会会長
- 平成26年 千葉市動物公園園長、ボルネオ保全トラストジャパン理事長
- 令和元年 動物観研究所所長・理事長